

第9回歴史探訪

「市川市の史跡を巡る」のお知らせ

第9回歴史探訪「市川市の史跡を巡る」を以下のとおり実施しますので、お知らせいたします。

千葉県市川市は江戸川を隔てた東京の東隣で、市内では古くは先土器時代の人々の活動の痕跡が見つかっており、律令国家成立の際には、下総の国府や国分寺が設置され、以後下総国の政治・文化の中心となりました。明治時代以降には、軍事上の拠点となったほか、東京郊外としての立地や環境の良さから、文人・亡命政治家が移り住むなどしたため、近現代の歴史に深くかかわる史跡が点在します。

また、市川市考古博物館は、先土器時代から平安時代までの、市川市歴史博物館は、鎌倉時代以降の歴史や文化を紹介しています。歴史博物館では、とくに海辺と台地、水路と陸路など、地形と密接に結びついた市川の生活や生業の特徴に焦点を合わせた展示も行われています。

今回の歴史探訪では、手児奈霊堂、郭沫若記念館、下総国分寺などの市川市中・北部の史跡を訪ね、最後に市川歴史・考古博物館を見学し、館員の方にご説明をいただく予定です。当日の案内を本会副会長の山田昌久氏にお願いいたしました。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

※見学・移動時間には十分余裕を持った計画を立てておりますが、結構な距離（5km ほど）を歩くことになります。予めご承知おきの上、運動しやすい格好で参加されることをおすすめします。

日 時：10月8日(土) 12時30分～16時30分

集合場所：京成電鉄 国府台駅改札前 集合

集合時間：12時30分（食事をすませてきてください）

日 程：国府台駅集合（12時30分）→手児奈霊堂、郭沫若記念館、下総国分寺を見学（徒歩移動約2.5km）→（バス移動）→市川歴史博物館・考古博物館（14時50分頃着）の展示、堀之内貝塚を見学→現地解散（16時30分頃）→浅草で懇親会

講 師：山田 昌久氏（首都大学東京教授、本会副会長）

- 参加ご希望の方は、10月3日（月）までに葉書もしくはメール（本会報末尾をご参照下さい）でお申し込みください。その際、懇親会参加の有無をお書き添え願います。

メトロポリタン史学会第12回総会・大会報告

2016年4月23日（土）に、首都大学東京 南大沢キャンパス 本部棟1階・大会議室において、第12回総会・大会が開催されました。大会の参加者は26名（懇親会14名）でした。

まず午前10時30分から小谷汪之氏を議長に選出して総会が始まり、2015年度活動報告、会計決算、監査結果、2016年度活動方針案、予算案が順次提案され、承認されました。議論ではこれまで刊行してきた会誌『メトロポリタン史学』バックナンバー所収論文のインターネット公開を進めることが提議され、今後、具体的な手続きを委員会で審議、決定することが確認されました。

大会シンポジウムでは、趣旨説明の後、「近世・近代における都市と開発—環境史の視点から—」というテーマで以下の4氏の報告が行われました。

渡邊裕一氏（日本学術振興会特別研究員PD）

「アルプス山脈・レヒ川流域における都市の森林・河川利用

——16世紀アウクスブルクの史料から——」

上田 信氏（立教大学）「風水都市・北京」

後藤雅知氏（立教大学）

「近世房総の山間地域における林産物生産——19世紀の岩槻藩房総分領を例に——」

山田昌久氏（首都大学東京）「近世都市江戸の木材事情変化について」

大会当日の様子については、後掲の大会参加記をご参照いただくとして、いずれの報告も有意義な問題提起となっており示唆に富み、全体討論も吉田伸之氏・渡辺健哉氏・徳橋曜氏からのコメントを交え、参加者を含めて活発に行われました。各報告の内容は12月刊行予定の『メトロポリタン史学』第12号に特集論文として掲載される予定です。ご期待ください。

メトロポリタン史学会第12回総会議案書（2016.4.23）

[メトロポリタン史学会 2015年度活動報告]

2015.4~2016.3

1. 会誌『メトロポリタン史学』第11号を2015年12月に刊行し、史学科のある大学を中心に約80機関に寄贈した。
2. 第11回総会・大会（シンポジウム「戦後の歴史と歴史学」）を2015年4月18日（土）に開催した。参加者35名（懇親会18名）。また、第12回総会・大会（2016年4月23日、シンポジウム「近世・近代における都市と開発—環境史の視点から—」）を準備した。
3. 第3回若手研究者の集いを2015年11月21日（土）に実施した。内容は報告2本、書評2本であり、参加者は15名（懇親会10名）であった。
4. 第8回歴史探訪「江戸東京たてもの園見学会」を2015年10月4日（日）に実施した。参加者10名、懇親会6名。
5. 会報18号（2015.9.18）、19号（2016.3.26）を発行した。
6. 会員数は現状維持にとどまり、拡大目標（165名）を達成できなかった。
7. 鎌倉佐保、福士由紀の両氏を委員とした。

[メトロポリタン史学会 2016年度活動方針案]

2016.4~2017.3

1. 会誌『メトロポリタン史学』第12号を2016年12月に刊行する。特集は、第12回大会シンポジウム「近世・近代における都市と開発—環境史の視点から—」の各報告とする。論文の投稿を促すとともに、時評、書評などの掲載に努める。
2. 第4回若手研究者の集いを2016年11月19日（土）に開催する。報告要旨を会誌に掲載する。
3. 第9回歴史探訪を2016年10月に実施する。
4. 第13回総会・大会（2017年4月22日）を準備する。

5. 165名を目標に会員拡大に努め、会財政の確立を図る。
6. 必要に応じて委員の補充を行う。
7. 会誌『メトロポリタン史学』バックナンバー所収論文のインターネット公開を進める。具体的な手続きについては委員会で審議、決定する。

[メトロポリタン史学会 2015・16年度委員名簿]

任期：2015.4～2017.3

会 長：木村 誠
 副 会 長：中野隆生, 奥村 哲, 山田昌久
 事 務 局：赤羽目匡由 (事務局長), 前田弘毅, 大沼 巧
 編 集：河原 温 (責任者), 佐々木 真, 澤田秀実, 月脚達彦, 福田千鶴, 福土由紀
 企画・研究：源川真希 (責任者), 森田喜久男, 千葉正史, 鎌倉佐保, 白川耕一, 山岡拓也
 監 事：義江明子, 中嶋 毅
 顧 問：佐々木隆爾, 小谷汪之

メトロポリタン史学会 2016年度予算				
				2016.4.1～2017.3.31
[収入]	1,129,419			
	前年度繰越金			320,419
	会費			789,000
		一般会員	5,000 × 120	600,000
		学生・院生	3,000 × 12	36,000
		未収分	5,000 × 30	153,000
			3,000 × 1	
	叢書販売		2,000 × 10	20,000
	合計			1,129,419
	* 予定会員数：165名 (一般 150, 学生・院生 15)			
[支出]	1,129,419			
	会誌制作費			908,724 *1
	通信料金			130,480
		会誌郵送	140 × 220	30,800
		11号郵送		29,680 *2
		大会案内・会報等発送		50,000
		葉書・切手		20,000
	事務用品代			20,000
	賃金・旅費			40,000
	雑費			20,000 *3
	予備費			10,215
	計			1,129,419
	*1 前年度未執行分の会誌11号制作費 408,724円を含む			
	*2 前年度未執行分			
	*3 前年度未執行分の会誌制作費振込手数料 432円を含む			

メトロポリタン史学会 2015年度決算報告

			2015.4～2016.3	
[収入]			2015予算	2015決算
前年度繰越金			155,913	155,913
会費			789,000	408,000
	2009年度以前	(現金)	—	0
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	10,000
	2010年度	(現金)	—	0
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	15,000
	2011年度	(現金)	—	0
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	15,000
	2012年度	(現金)	—	0
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	25,000
	2013年度	(現金)	—	0
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	30,000
	2014年度	(現金)	—	5,000
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	76,000
	2015年度	(現金)	—	38,000
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	174,000
	2016年度以降	(現金)	—	5,000
		(銀行)	—	0
		(郵便振替)	—	15,000
雑収入			20,000	11,871
	会誌売り上げ		—	7,860
	叢書売り上げ		20,000	4,000
	銀行口座利息		—	1
	その他		—	10
計			964,913	575,784
[支出]			2015予算	2015決算
会誌制作費			500,000	0
郵便料金			109,600	58,085
	会誌発送		39,600	0
	大会案内・会報等発送		50,000	28,795
	葉書・切手		20,000	29,290
	その他		—	0
事務用品代			20,000	10,523
賃金・旅費			50,000	0
雑費			20,000	1,347
	振込手数料		—	0
	弁当・お茶・紙コップ		—	1,347
予備費	懇親会会場運営費		115,313	35,410
借入金返済	佐々木隆爾氏へ		150,000	150,000
次年度繰越金			—	320,419
	現金		—	32,791
	銀行		—	10,730
	郵便振替		—	276,898
計			964,913	575,784
※この他に、小谷汪之氏より¥ 150,000円の借入金がある。				
●会員数 151名 (一般142名 学生・院生 9名)				
●会費納入率 15年度・56/151=37.1% 14年度・97/148=65.5% 13年度・114/150=76.0% 12年度・111/150=74.0%				

【大会シンポジウム参加記】

第12回大会シンポジウム「近世・近代における都市と開発——環境史の視点から——」の参加記が古谷暢子氏から寄せられました。お忙しいにもかかわらず原稿を執筆して下さった古谷氏にお礼申し上げます。

メトロポリタン史学会大会参加記

古谷 暢子

朝鮮史専攻の私にとって、他分野の研究報告を気軽に聞くことができるというのがメトロポリタン史学会大会に参加する何よりの理由で、今回もまた16世紀アルプス地域、15世紀～現代中国・北京、近世日本についての報告に戸惑いつつ、刺激された一日でした。まずは、報告を準備された方々と、運営に骨を折られた方々に感謝しつつ、雑駁な感想を述べたいと思います。

私が今回最も関心をもっていたのが、上田報告「風水都市 北京」でした。朝鮮王朝においても風水思想は都の選定から、墓・住居に至るまで大きく影響しているからです。上田報告では、北京



が海河の水系に位置し、北は燕山、南は黄河、東に渤海という風水の適地にあることが遷都の理由だとされました。北京は年間降水量が東京の約1/3で、周囲を華北の畑作地帯に囲まれていますから、太行山脈からの伏流水で地下水豊富であるという指摘に驚きました。当日も指摘がありましたが、確かに夏季、故宮北に広がる胡同の並木エンジュが枝を広げ、景山から見下ろすとあたりは「緑の樹海」にみえます。エンジュが「適湿地」の樹木ということはあとから事典をひいて知り2度びっくりしましたが。

さて、朝鮮においても風水思想が漢城遷都に影響を与えたということについて、城壁が漢城を取り囲む二重の山並みの内側の山の尾根をつなぐように建設された結果、漢城の輪郭が、北京の方形とは対照的に、非定型であることが特徴とされています。朝鮮では、自然地形をそのまま生かしていることが風水思想を重視している証左のひとつとします。一方、中国では、大河を南北に結ぶ1500キロ余に及ぶ大運河を建設し、その大運河も海河の水系の一部ととらえる点については、風水思想からどのように解釈されるのか、素朴な疑問がわきました。余談ですが、2013年3月初め、春めいてはきているもののまだ池の氷が厚い北京から、西湖のほとりの桃が満開の杭州に飛行機で飛び、京杭大運河の起点という場所に立ったことがあります。冬から春へ季節をこえて到着した杭州はしっとりして緑豊かで気候区を超えた実感に、大運河の規模を一層感じさせられました。その上、終点が北京の通惠河という、当時北京在住だった娘宅の近くで何度となくバスやタクシー渡った川でしたから。

そして、現代の北京の水不足を、南水北調構想により解決すべく、長江支流漢江の水を丹江口ダムで取水し黄河を横断し北京に運ぶという中線ルートが完工し、2014年末に通水したとのことでしたが、報告者の、南水北調が北京を救えるのかという問いかけは、自然との調和を重視する風水思想の再評価にまでつながるのでしょうか。崑崙山脈を源とする気の流れが地形に発現し、権力者あるいは一族の運命に影響するという風水思想を重視する点において、中国朝鮮は共通するものの、権力者の自然観の隔たりを改めて感じ、それを規定する領土・地形の規模、気候など自然条件と伝統的な解決方法を比較していく必要性を痛感しました。

【投稿のお願い】

本会では、会員の皆様の積極的なご寄稿をお待ちしています。広く、歴史研究・教育の諸領域にかかわる内容のものを求めます。

『メトロポリタン史学』(The Metropolitan Shigaku) 投稿規定

- (1) 本誌は、年一回12月に発行するものとし、原稿の締切は、毎年8月末日とする。
- (2) 投稿資格は、原則として会員に限る。ただし、編集委員会からの依頼原稿に関してはこの限りではない。
- (3) 投稿言語は、日本語または英語とする。
- (4) 投稿原稿は、歴史学・考古学、歴史教育の分野に関する以下の種目のものとする。
 - ①論文(図表を含み、24,000字以内；英文の場合は、8,000語以内)
 - ②研究ノート・史料紹介(同 12,000字以内；英文の場合は4,000語以内)
 - ③学界動向(8,000字以内；英文の場合は2,700語以内)
 - ④書評(4,000～8,000字)
 - ⑤時評・提言(4,000字以内)
- (5) 論文、研究ノート(投稿は縦書き、横書きいずれも可であるが、雑誌刊行時には縦書きとなる)には、欧文で要旨(300語以内)を添付する(原文が英文の場合は日本語要旨800字以内)。また目次の英文タイトルを付記する。
- (6) 原稿は、編集委員会が採否を決定する。その際、論文、研究ノートについては、編集委員会および編集委員会が委嘱した査読者の審査を経る。
- (7) 著者校正は、再校までとし、校正時における文章の大幅な変更は認めない。
- (8) 注は、末尾にまとめる。
- (9) 原稿は原則として、印字された原稿と共に、電子媒体で提出する。
- (10) 原稿(表、図表を含む)は、コピー3部及び送り状*(1部)を添えて提出する。
- (11) 掲載の論文、研究ノート・史料紹介、学界動向、書評については、別刷り30部を進呈する。
- (12) 原稿の送り先、照会については、

〒192-0397 八王子市南大沢1-1 首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系
国際文化コース(歴史・考古学分野)、河原 研究室気付
『メトロポリタン史学』編集委員会
Tel: 0426-77-2119(河原研究室) Fax: 0426-77-2112
E-mail: kawara28@tmu.ac.jp(河原研究室)

* 送り状は学会ホームページ(<http://www.geocities.jp/metropolitanshigaku/>)からダウンロードしたものをコピーするか、事務局にお問い合わせください。

メトロポリタン史学会

第4回若手研究者の集いのお知らせ

メトロポリタン史学会の秋の企画として定着してきた感があります「若手研究者の集い」が、来る2016年11月19日(土)に第4回目を迎えるはこびとなりました。若手研究者の発表と交流の場としてより充実させてゆけますよう、会員の皆様には、奮ってのご参加をお願い申し上げます。

日 時 2016年11月19日(土) 午後1時～午後5時

会 場 首都大学東京(旧東京都立大学) 教室未定

京王相模原線南大沢駅下車・徒歩5分

日 程

【研究報告】 13:00～15:00

報告1. 土居嗣和氏(早稲田大学高等学院地歴科 非常勤講師, 東京大学大学院人文社会系研究科 修士課程修了)

「日本古代における律令制大臣の特質——大臣関係令文の再検討——」

報告2. 大沼巧氏(東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程)

「(仮)大韓帝国期における海税徴収の実態と所有権の整理——慶尚南道沿海部を中心に——」

【書評】 15:00～17:00

書評1. 福士由紀氏(首都大学東京 都市教養学部)

「帆刈浩之著『越境する身体の世界史

——華僑ネットワークにおける慈善と医療——』風響社, 2015年」

書評2. 林田伸一氏(成城大学 文芸学部)

「佐々木真著『ルイ14世期の戦争と芸術——生みだされる王権のイメージ——』作品社, 2016年」

【懇親会】 17:30～20:00

【事務局からのお願い】

●メトロポリタン史学会会報第20号をお届けします。第12回大会・総会の結果をご報告いたします。また、第9回歴史探訪および第4回若手研究者の集いとをご案内いたします。奮ってご参加ください。引き続き会財政健全化のため、年会費を年度内にお支払い下さいますようお願いいたします。一般5,000円、学生・院生3,000円です。

メトロポリタン史学会(会長 木村誠)

〒192-0397

東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 国際文化コース 歴史・考古学分野内

TEL: 0426-77-2110(赤羽目匡由研究室) E-mail: mshigaku@tmu.ac.jp

ホームページ: <http://www.geocities.jp/metropolitanshigaku/>

郵便振替: 00100-0-537287 メトロポリタン史学会